

農学府修士課程

(前文)

東京農工大学は、東京武蔵野に位置し、その歴史は、1874年に設置された内務省農事修学場および蚕業試験掛をそれぞれ農学部、工学部の創基とし、1949年に大学として設置され、前身校を含め長きに亘る歴史と伝統を有する大学です。この建学の経緯から、人類社会の基幹となる農業と工業を支える農学と工学の二つの学問領域を中心として、幅広い関連分野をも包含した全国でも類を見ない特徴ある科学技術系大学として発展してきました。

20世紀の社会と科学技術が顕在化させた「持続発展可能な社会の実現」に向けた課題を正面から受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念としています。この基本理念を「使命志向型教育研究—美しい地球持続のための全学的努力」(MORE SENSE:Mission Oriented Research and Education giving Synergy in Endeavors toward a Sustainable Earth)と標榜し、自らの存在と役割を明示して、21世紀の人類が直面している課題の解決に真摯に取り組んでいます。

(学びの目的)農学府は、農学、生命科学、環境科学分野の諸課題の解決と持続発展可能な社会の形成に資するため、広い視野に立つとともに専攻分野における精深な学識を授け、豊かな教養、高い倫理観と国際感覚を具備し、共生社会を構築して人類社会に貢献できる、指導的研究者・技術者・高度専門職業人を養成することを目的とする。この目的を達成するため、以下のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定めて修士を養成し、広く社会に貢献する。

農学府（修士課程）

教育研究の目的、および人材養成の目的をふまえ、農学府は、以下のような人材を求める。

- 幅広い視野と専攻分野を学ぶための十分な基礎学力をあわせもち、高い倫理性を身につけた者。
- 地域社会や国際社会における食料・生命・資源・環境など様々な問題に関心を持ち、研究を通じて、主体的に考え、他の人と協力・協働して、研究課題の解決や社会の発展に貢献する意識の高い者。
- 人類が直面している諸課題に対し、多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定する事ができ、その課題に果敢に挑戦する意欲のある者。
- 日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）	生物生産科学専攻（MP）	共生持続社会学専攻（MS）	応用生命化学専攻（ML）	生物制御科学専攻（MC）	環境資源物質科学専攻（MR）
		<p>生物生産科学専攻は、食料生産技術と環境保全の調和、持続的な生物生産の確立、食料自給率向上や安定供給、動植物の生産機能の解明、バイオマス利活用技術の開発等に貢献する能力を有する、広い視野に立つ専門家および研究者を養成することを目的とする。よって、次のような人材を求める。</p> <p>1. 食料生産技術や動植物生産科学分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 生産環境科学・植物生産科学・動物生産科学に関する十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>	<p>共生持続社会学専攻は、農学諸分野の科学技術を理解した上で、人文社会科学に基づく問題発見と分析、課題解決のための企画・課題遂行・調整などに卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家および研究者を養成することを目的とする。よって、次のような人材を求める。</p> <p>1. 環境共生型の持続可能な社会の構築に関する諸課題に対して、人文社会科学の総合的な視点から接近する研究に関心があり、食料・農業およびその関連産業、地域活性化等での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 共生人間学・環境社会関係学・食糧環境経済学に関する十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>	<p>応用生命化学専攻は、生体分子化学、生理生化学、分子生物学、環境老年学などの生命機能を理解し応用する専攻分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家および研究者を養成することを目的とする。よって、次のような人材を求める。</p> <p>1. 生体分子化学・生理生化学・分子生物学・環境老年学分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 生体分子化学・生理生化学・分子生物学・環境老年学に関する十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>	<p>生物制御科学専攻は、植物、微生物、昆虫などの生物の制御および生物間相互作用に関する研究分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家および研究者を養成することを目的とする。よって、次のような人材を求める。</p> <p>1. 生物制御および生物間相互作用分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 生物機能制御学・生物適応制御学に十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>
	<p>物質循環環境科学専攻（MK）</p> <p>物質循環環境科学専攻は、環境化学および環境生物学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家および研究者を養成することを目的とする。よって、次のような人材を求める。</p> <p>1. 環境化学および環境生物学分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 環境化学・環境生物学分野の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>	<p>自然環境保全学専攻（MN）</p> <p>自然環境保全学専攻は、野生生物、山地・森林、都市および人間を対象にして、自然環境の持続的利用と保護および回復に関わる自然環境保全学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家および研究者を養成することを目的とする。よって、次のような人材を求める。</p> <p>1. 野生生物、山地・森林、都市および人間を対象にした研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 生態系保全学・森林環境保全学に関する十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>	<p>農業環境工学専攻（MT）</p> <p>農業環境工学専攻は、農学と工学の手法を駆使して、海外も含めた農山村地域の発展に貢献し、持続的食料生産システムや地域環境整備を行う農業環境工学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家および研究者を養成することを目的とする。よって、次のような人材を求める。</p> <p>1. 農山村地域の発展、食料生産システム、地域環境整備に関する研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 地域環境工学・生物生産工学に関する十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>	<p>国際環境農学専攻（MI）</p> <p>国際環境農学専攻は、学際的な環境農学分野において、国際的視野を持ち、諸外国の文化を理解し、国際社会において指導的立場で活躍できる専門家および研究者を養成することを目的とする。よって、次のような人材を求める。</p> <p>1. 学際的な環境農学分野、とりわけ海外の環境・農業・地域社会を対象にした研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという強い意欲を持つ者。</p> <p>2. 環境修復学・生物生産資源学・国際地域開発学に関する十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>	

工学府博士前期・後期課程、専門職学位課程
(前文)
東京農工大学は、東京武蔵野に位置し、その歴史は、1874年に設置された内務省農事修学場および蚕業試験掛をそれぞれ農学部、工学部の創基とし、1949年に大学として設置され、前身校を含め長きに亘る歴史と伝統を有する大学です。この建学の経緯から、人類社会の基幹となる農業と工業を支える農学と工学の二つの学問領域を中心として、幅広い関連分野をも包含した全国でも類を見ない特徴ある科学技術系大学として発展してきました。
20世紀の社会と科学技術が顕在化させた「持続発展可能な社会の実現」に向けた課題を正面から受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念としています。この基本理念を「使命志向型教育研究―美しい地球持続のための全学的努力」(MORE SENSE: Mission Oriented Research and Education giving Synergy in Endeavors toward a Sustainable Earth)と標榜し、自らの存在と役割を明示して、21世紀の人類が直面している課題の解決に真摯に取り組んでいます。

(学びの目的)工学府は、自然環境と科学技術に関心を持ち、常に自己を啓発し、広い知識と視野を持ち、高い自主性と倫理性に支えられた実行力を有し、国際社会で活躍できる技術者・研究者を目指す学生を国内外から広く受け入れる。最近の科学技術の発展は目覚ましいものがあり、技術・情報が高度化、先端化すると同時に種々の専門分野に関連する境界領域や総合領域における発展も著しい。工学府は、このような時代の要請に対応する科学と工学の基礎学問から先端応用技術に至る広範囲の研究教育を教授し、幅広い学識と高度の研究能力を有する独創性豊かな学術研究者、専門技術者を養成することを目的と特色としている。

工学府(博士前期課程・後期課程、専門職学位課程)					
	教育研究の目的、および人材養成の目的をふまえ、工学府は、以下のような人材を求める。 1. 幅広い視野と専攻分野を学ぶための十分な基礎学力を合わせもち、高い倫理性を身につけた者。 2. 大自然の真理に対する探求心とモノ作りマインドを持ち、理工学分野の科学技術に関心があり、研究を通じて主体的に考え、他人と協力・協働して、研究課題の解決や社会の発展に貢献する意識の高い者。 3. 人類が直面している諸課題に対し、多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定することができ、その課題に果敢に挑戦する意欲のある者。 4. 日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。				
	生命工学専攻	応用化学専攻			機械システム工学専攻
博士前期		物質応用化学専修	有機材料化学専修	システム化学工学専修	
博士後期		精密分子化学専修	有機材料化学専修	システム化学工学専修	
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)	国際性、コミュニケーション能力、国内外の学会発表や論文発表ができる能力を身につけさせ、最先端の生命工学の専門家として、現代社会のニーズに即応して活動でき、新たなニーズの発掘とシーズの発見能力に富んだ、研究者・専門家・職業人として社会の中核で活躍できる人材の養成を目的とする。よって、次のような人材を求める。 1. 生命工学分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。 2. 生命工学分野の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。	化学者として先導的役割を果たす高度専門的研究指導能力を有し、資源・エネルギー・素材/材料・地球環境に関連する諸問題を解決し、基礎・応用研究の発展や持続型社会の形成に寄与する人材の養成を目的とする。よって、次のような人材を求める。 1. 原子・分子に立脚した化学の視点から新しい価値を創出し、社会的・国際的に貢献したいという意欲と創造性を持つ者。 2. 化学や関連技術分野の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、未踏の学理の追究や原理の解明、新しい研究領域の開拓に果敢に挑戦する意欲と積極性を有する者。	有機・高分子物質を中心に、無機物質や金属との複合体も含めた広義の有機材料化学に関する高度専門的な科学展開・技術開発の指導的立場を担える人材の養成を目的とし、それを通して世界全体の安心な生活の実現に寄与することを目指す。よって、次のような人材を求める。 1. 有機・高分子物質について、その化学、物理的性質、応用・利用に関心があり、その周辺領域や複合領域も含め、この分野の専門家として社会に貢献する意欲を持つ者。 2. 化学あるいは物理分野の十分な基礎学力を有し、研究活動を通して物質科学的洞察と課題発見・解決策策定能力を専門的指導者に求められる水準まで高めようとする者。	持続型社会の形成に貢献するべく、エネルギー・地球環境・医薬/食品・素材/材料に関連する化学・技術の諸問題を解決し、先導的役割を果たす高度専門的指導能力を有し、その成果をもって社会的・国際的に活躍できるケミカルエンジニアの養成を目的とする。よって、次のような人材を求める。博士後期課程は博士前期課程の能力をさらに高度化する意欲のある者を求める。 1. エネルギー・地球環境・医薬/食品・素材/材料に関連する化学・技術分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。 2. 化学・技術分野の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。	物理・数学の高い基盤的解析能力と機械工学の幅広く深い専門知識に基づいて、環境と調和して持続発展可能な科学技術立脚社会をグローバルスケールで実現するためのUnique & Bestな先端的機械システムを設計・創造し、世界の社会・文化に関する深い理解・洞察と豊かなコミュニケーション能力で国際的に活躍できる高度な技術者・研究者を養成することを目的とする。このために、次のような人材を求める。 1. 機械工学ならびに先端機械システムの最先端の研究に取り組む高い学問的応用能力があり、専門分野での国際的活動を通じて人類・社会に貢献したいという強い意志を持つ者。 2. 物理・数学ならびに機械工学分野において高度な解析能力・専門知識・洞察力に基づいて問題を発見・解決する能力を有するとともに、新しい研究領域や融合的領域における研究課題に果敢に挑戦する意欲にあふれた者。
博士前期	物理システム工学専攻	電気電子工学専攻	情報工学専攻	産業技術専攻(専門職学位課程)	
博士後期	物理応用工学専修	電子情報工学専攻	知能・情報工学専修		
	物理システム工学専攻(博士前期課程)は、高度な物理の基礎と専門教育により、各専門分野の研究・開発の現状、その概念・方法を学ぶとともに高い論理的思考能力を培い、直面する課題に対して物理学的視点・方法から問題を発見・分析して、その解決策を実践的に展開させる能力を持つ人材の養成を目的とする。 物理応用工学専修(博士後期課程)は、最先端の物理学・物理工学における先導的な学識を教授し、また自立した研究者に相応しい課題発掘能力、実践的研究能力、技術開発の展開能力、国際性と情報発信能力、社会的ニーズに対する柔軟性などを涵養して、当該分野や分野横断的な未知の課題の解決に対応し得る人材の養成を目的とする。以上から、本専攻・本専修では次のような人材を求める。 1. 物理分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。 2. 物理分野の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。	現代社会の根幹を支える電気電子工学の先端技術及び関連する専門知識を修得させるとともに、各専門分野での研究活動や産業界との連携を通じて、社会的ニーズに基づいた実践的な研究開発能力を有する、電気電子工学技術の発展に寄与する人材の養成を目的とする。よって、次のような人材を求める。 1. 電気電子工学の分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。 2. 電気電子工学に関する十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。	情報工学専攻(博士前期課程)は、自らの手で研究開発を推進する実践型教育を重要視するとともに、対外発表等を通じて学際性や国際性を滋養し、情報工学に関する深い知識に基づき、新しい情報論理・概念を創造し、より完成度の高いシステムを造り上げていく高度な能力を持つ人材の養成を目的とする。 知能・情報工学専修(博士後期課程)は、情報工学の分野の先導的な学識を教授し、また自立した研究者に相応しい課題発掘能力、実践的研究能力、技術開発の展開能力、国際性と情報発信能力、社会的ニーズに対する柔軟性などを滋養して、当該分野や分野横断的な未知の課題の解決に対応し得る人材の養成を目指すものとする。よって、次のような人材を求める。 1. 情報工学の分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。 2. 情報工学に関する十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。	先鋭的な科学技術を工学的基盤とし、加えてリスクマネジメント、知的財産管理、国際標準化という技術経営(Management Of Technology: MOT)の知識を兼ね備え、戦略的に研究開発・製品開発を行なうことができ、我が国の産業技術のイノベーションを推進する技術系人材の養成を目的とする。 よって、次のような人材を求め。 1. 科学技術を実際の研究・開発を通して習得し、技術経営の知識を兼ね備え、修了後に研究・技術開発職や博士後期課程進学を志望する新卒学生・社会人。 2. 戦略的な技術開発、製品化、事業化に関するスキルと知識を習得し、企業等における経営・戦略・企画を担当する業務をめざす社会人。	

生物システム応用科学府 博士前期課程・後期課程、一貫制博士課程、後期のみ博士課程
 (前文)
 東京農工大学は、東京武蔵野に位置し、その歴史は、1874年に設置された内務省農事修学場および蚕業試験掛をそれぞれ農学部、工学部の創基とし、1949年に大学として設置され、前身校を含め長きに亘る歴史と伝統を有する大学です。この建学の経緯から、人類社会の基幹となる農業と工業を支える農学と工学の二つの学問領域を中心として、幅広い関連分野をも包含した全国でも類を見ない特徴ある科学技術系大学として発展してきました。
 20世紀の社会と科学技術が顕在化させた「持続発展可能な社会の実現」に向けた課題を正面から受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念としています。この基本理念を「使命志向型教育研究－美しい地球持続のための全学的努力」(MORE SENSE: Mission Oriented Research and Education giving Synergy in Endeavors toward a Sustainable Earth)と標榜し、自らの存在と役割を明示して、21世紀の人類が直面している課題の解決に真摯に取り組んでいます。

生物システム応用科学府（博士前期課程・後期課程、一貫制博士課程、後期のみ博士課程）			
アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）	教育研究の目的、および人材養成の目的をふまえ、生物システム応用科学府は、以下のような人材を求める。 生物システム応用科学分野の学際性、融合性を考慮し、分野や履歴にとらわれず、高度の専門的・学際的知識の習得と知の開拓に強い意志を持ち、最新の科学技術の展開に関心を抱き、実践的に行動する意欲を持った学生を、広く国内外から受け入れる。		
	生物機能システム科学専攻 (博士前期・後期課程)	食料エネルギーシステム科学専攻 (一貫制博士課程5年)	共同先進健康科学専攻 (後期3年のみ博士課程)
	<p>生物機能システム科学専攻は、複雑な生物機能に学ぶことで発想される物質生産及び変換、情報処理及び伝達、環境計測、生体計測、物質循環等に関わる様々なシステムを理解するための学問、学術分野を基盤として、農学と工学に係る幅広い実業界で活躍できる修士人材と、高度な科学的素養と課題解決力を具え、先導的な研究実施能力を有する博士人材の養成を目的とする。</p> <p>よって、次のような人材を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物に学び、その機能を生かした物質、機械、情報、医療・健康、医薬、物質循環等、様々な農工融合の新たなシステムに関心があり、これらの知識や技術の習得を通して、幅広い分野で活躍する意欲のある者。 2. 特定の分野の知識・技能だけではなく、関連する分野の素養を基礎として、学際的な分野への対応能力を含めた高度な専門的知識や実験・計測技術の習得に関心を持ち、これらの活用により持続可能で安全・安心な社会へ貢献する意欲のある者。 3. 産業界や国際的ニーズの潮流を理解し、実践的な課題の発見や課題解決に挑戦する意欲をもつ者。 	<p>食料エネルギーシステム科学専攻は、食料、エネルギー、環境の相互不可分の関係を理解し、人類生存の究極課題に熱意を持って挑戦し、複合領域に跨がる広い専門分野の人材を統率できるリーダーとして幅広い分野の専門家と連携したチームを作り、卓越したコミュニケーション力により国際社会で活躍できる人材の養成を目的とする。</p> <p>よって、次のような人材を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の人類の生活と生存、特に食とエネルギーの局面に関心を持つとともに、これらに関する地球規模の課題に対する問題意識を持ち、自然エネルギー分野、蓄電・省エネ技術、バイオマス、環境調和型生産技術、土壌の再生力向上、環境変化に強い農作物の作出、省エネ型植物工場、精密農業技術、持続的要素リサイクルシステムの構築等、食料やエネルギーの生産に直接関わる専門領域の知識や技術の習得を通して、国際社会に貢献する意欲のある者。 2. 専門領域の知識や技術に限らず、これらを間接的に支える、あるいはこれらに大きな影響力を持つ社会システムに関心を持ち、総合的な課題解決に取り組む意欲を持つとともに、幅広い分野の専門家と連携したチーム作りに挑戦し、国際社会とのコミュニケーションを積極的に行う意欲のある者。 	<p>共同先進健康科学専攻は、生命科学・食料学・環境科学に関わる先端研究を推進する能力を有する人材の育成を基盤とする。加えて、国際基準の機器・新薬・分析法等の開発とリスク管理や審査プロセスを統括する能力を具備する研究者や産業界で新製品開発や新技術開発を牽引する最高度開発者・技術者の養成を目的とする。</p> <p>よって、次のような人材を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命科学・食料学・環境科学に関わる先端研究の知識や技術に関心があり、これらの習得を通して、先端医療技術、疾病予防、食の安全・安心、食品の機能・管理、環境リスク制御、環境改善など、先進的な健康科学に貢献する意欲のある者。 2. 特定の分野の知識・技能への関心だけでなく、関連する分野や複合領域における多様な課題の発見、解決に関心を持つとともに、新たな技術開発や研究開発へ探求心を持って果敢に挑戦し、産業界や研究開発機関、官公庁等において、国内外のリーダーとして活躍する意欲のある者。

連合農学研究科(後期3年のみ博士課程)

(学びの目的)

連合農学研究科は、ひとつの大学のみでは期待し難い分野を相互に補いつつ、生物生産の維持向上に関する諸科学、生物資源・生物機能の活用と生物素材の保存等にかかわる生物利用科学の深化・発展に資するとともに、それを応用した生物利用科学、環境科学に関する高度の専門的能力と豊かな学識をそなえた研究者を養成し、人類の生活向上のために必須の生物資源開発関連科学の大部分を占める農学の発展のために資することはもちろん、科学の進歩と生物関連産業の諸分野発展に寄与することを目的としています。

アドミッション・ポリシー(入学者の受入方針)

連合農学研究科(後期3年のみ博士課程)

教育研究および人材養成の目的をふまえ、連合農学研究科は、以下のような人材を求めています。

現在、人類は地球環境の破壊、人口の急増、資源の枯渇などのかつてないほどの危機に直面しています。地球上の生物が共存できる環境の維持、安全な食料の確保、暮らしを支える資源の確保、健康な生活の維持は、われわれの「いのちと暮らし」を支えるために必要不可欠です。農学はまさに「いのちと暮らし」の総合科学といわれるように、これらの問題解決に繋がる重要な学問分野として位置づけられています。21世紀はまさに農学の時代といっても過言ではありません。

農学が人類の生存と福祉に、これまで以上に貢献するためには、高度の研究・分析能力を備えた人材の育成が不可欠です。このような社会要請を受け、本研究科では、茨城大学、宇都宮大学、東京農工大学の農学研究科および農学府での教育を基盤として、日本およびアジアでの中核的な博士課程大学院としての発展を目指し、広い視野、高度な専門知識、理解力、洞察力、実践力を獲得できる創造的で機能性に富んだ教育を追求し、総合的判断力を備え、国際社会に貢献できる高度専門職業人や研究者を養成します。

本研究科が求める入学者は、国内外を問わず、農学と関連する分野の専門知識や技術を持った学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者で、入学後に携わる研究領域に強い関心と意欲を持っていることが必要です。

生物生産科学専攻	応用生命科学専攻	環境資源共生科学専攻	農業環境工学専攻	農林共生社会科学専攻
<p>作物および家畜・家蚕の生理生態、遺伝育種、動植物保護の農業生産に寄与する分野についての研究を通して、学理と技術諸問題の高度かつ深化した教育を行います。植物を対象とする場合は植物生産にかかわる学理をアグロノミーの見地から総合化し、技術化することを目的とした教育を行います。動物を対象とする場合は動物の持つ機能を効率的に利用する上で必要な学理ならびに技術的問題の解明にあたる際に基礎から応用まで高度かつ広域な視野に立つことができるよう教育を行います。植物の病害虫と雑草防除を対象とする場合は対象の植物ごととして捉えるのではなく、広範な植物の種の共通問題として捉えられるよう教育と研究を行います。</p> <p>1. 植物生産科学、動物生産科学、生物制御科学の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 植物生産科学、動物生産科学、生物制御科学の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>	<p>生命現象の根源をなす生体反応を解析して、人類の生存に必要な物質生産のための基盤を確立するとともに、その応用、開発を行うことを目的とし、生物資源や生物機能の活用、生物素材の保存に関する科学と技術について総合的な教育を行います。</p> <p>1. 応用生物化学、生物機能化学の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 応用生物化学、生物機能化学の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>	<p>人口の増加と生産消費の拡大に伴い、限界が明らかとなりつつある地球上の人間の活動の場と、生物資源の特性を科学的に解明し、資源の効率的な生産とその保全、地球環境の保全、更に自然保護の科学を総合的に考究します。また、人間活動に伴い悪化した環境の修復、そのための技術および方法論を合理的に発展させることを教育と研究の課題として捉え、人類が持続的に生きていくために必要な生物圏の科学を、生物資源の持続的な生産と利用ならびに環境保全の総合的な見地から有機的に関連させつつ教育を行います。</p> <p>1. 森林資源物質科学、環境保全学の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 森林資源物質科学、環境保全学の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>	<p>農業生産の基盤となる農地の土と水に関する工学、地域の水利利用と水質管理及び水環境の保全に関する工学、地域資源の保全と地域の環境計画、農業生産の最適化と効率化に関するシステム工学、作物や家畜の生産および生産物の加工流通における環境制御工学等に関する研究を通して、これからの持続的かつ環境保全的な農業生産を支える工学技術分野について、基盤から応用までの総合的な教育と研究を行います。</p> <p>1. 農業環境工学の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 農業環境工学の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>	<p>人間と自然との共生のあり方、共生持続社会システムのあり方、効率的で環境保全的な農業生産を可能とする経営組織のあり方、資源循環型食料生産・流通とそれを可能とする地域社会システムのあり方、農業生産から消費に至る全過程(フードシステム)における主体のあり方、農業に関わる資源および農産物等に関する所有・流通・分配のあり方、等の社会経済的諸課題を究明できる総合的な教育と研究を行います。</p> <p>1. 農林共生社会科学に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的、国際的に貢献したいという意欲を持つ者。</p> <p>2. 農林共生社会科学の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。</p>